

戦後教育史を ひらく



《猫の教室》Class of Cats (1949年 油彩・キャンパス 軽井沢安東美術館蔵)
藤田嗣治/Léonard Tsuguharu Foujita

● 編者

米田俊彦
鳥居和代
齋藤慶子
大多和雅
絵松島のり子



2024年
11月発売

A5判・上製・368ページ
定価 4,000円＋税 (税込4,400円)
ISBN978-4-86617-250-7

電子書籍版も同時刊行!

詳細は弊社HP 電子書籍の案内ページを
ご覧ください

これまで多岐にわたる教育分野で先行して取り組み、
明らかにしてきた戦中・戦後のさまざまな教育事象を、
「戦後教育史」という通貫する流れに収斂し、
さらなる展望を示す……。
日本教育史の新たな地平を切りひらこうとする
米田俊彦と新進気鋭の研究者らが、
子どもと生活、ジェンダー、教育改革、文化の視点から
戦後教育史をひらく最新論文集。

「戦後教育史をひらく」とはどういうことか。筆者が大学院生であ
った一九八〇年代には、占領軍文書の公開を機に戦後教育改革の研究
がさかんになったものの、それ以降の時期についての教育史研究者に
よる教育史研究はほとんど進まなかったと言つてよい……。
ところが、二〇一八年に刊行された教育史学会他編『教育史研究の
最前線II』(六花出版)は、全一〇章のうちの一つの章を「戦後日本教育
史」としている(筆者が執筆を担当)。二〇二〇年代に入つて、ようやく
「戦後」が一つの時期区分として、日本教育史研究のなかで形をなして
きたのである……。
教育史研究は、歴史研究として、その時代の総体(全体的な動向)と
の関係で、あるいは、前後の時期との関係で対象を位置づけることが
求められるので、すでに他の専門領域によつて明らかにされた知見を、
補ったり組み換えたり整理し直したりすることも必要になることが予
想される。そういった作業の見通しの上に立つて、これから時間をか
けて戦後教育史研究を開拓していくというメッセージを込めて、本書
は「戦後教育史をひらく」というタイトルを掲げることにした。これ
をもって「ひらいた」のではなく、これから「ひらいていく」という意
味として受けとめていただけたら幸いである。「まえがき」米田俊彦より



六花出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-28 電話 03-3293-8787 ファクシミリ 03-3293-8788 <https://rikka-press.jp> e-mail: info@rikka-press.jp

まえがき (米田俊彦／お茶の水女子大学名誉教授)

序章 戦後教育史覚え書き (米田俊彦)

第一節 一九五〇年代の教育——政治と教育

第二節 一九六〇年代の教育——経済と教育

第三節 安定成長期の教育 (一九八〇年代半ばまで)

第四節 バブル経済以降の教育 (一九八〇年代半ば以降)

第I部

子どもの生活と教育の接点を問う
——学校行事、算数教育、保育・幼児教育

第一章 建国祭における児童の役割と学校教育への影響に関する一考察 (橋本萌／信州大学教職支援センター助教)

第一節 学校教育における紀元節

第二節 建国祭拡大状況

第三節 梅の節句と子どもたち

第四節 建国祭における学校教育の利用

第二章 第四期国定算術教科書『尋常小学算術』と「生活算術」 (桜井恵子／元小田原短期大学保育学科教授)

第一節 塩野直道の「生活算術」批判

第二節 全国訓導協議会における「生活算術」をめぐる議論

第三節 静岡県における一九三〇年代の教育

第四節 「生活算術」は戦後にどうつながったか

第三章 一九六三年「幼稚園と保育所との関係について(通知)」と保育者養成——『保母養成講座』改訂にみる「保育所保育指針」の影響 (松島のり子／お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系講師)

第一節 保育と教育、保母養成をめぐる政策方針

第二節 保母養成課程の制度的変遷

第三節 保母養成テキストの変化

第II部

ジェンダーの視点から教育を捉える
——母親教育、女性教員組織、家庭科教育

第四章 戦後初期の母親教育をめぐる動き——母親学校研究会の活動 (奥村典子／聖徳大学教育学部児童学科教授)

第一節 母親教育をめぐる文部省の動き

第二節 母親学校研究会

第三節 雑誌『母親学校』の書誌的概観

第五章 戦後教育改革期における二つの女性教員組織——女性教員会にとつての「一本化論議」 (齋藤慶子／日本女子大学人間社会学部教育学科教授)

第一節 長野県における戦前の女性教員組織

第二節 女性教員にとつての「一本化論議」

第三節 各郡市女教員会の諸相

第六章 一九五〇年代の高校被服教育と繊維工業、衣服製造業 (宇津野花陽／白鷗大学教育学部准教授)

第一節 学家庭科の設置状況

第二節 各種学校の設置状況

第三節 公共職業訓練における被服教育

第四節 新聞の求人広告にみる繊維工業、衣服製造業と被服教育との関係

第III部

教育改革の理念と現実を検証する
——高等普通教育、特別科学教育、教師教育

第七章 明治後期における高等学校改革構想——「高等普通教育」の制度化 (吉岡三重子／立教大学立教大学院史資料センター助教)

第一節 「高等学校制度改正案」における高等普通教育

第二節 牧野文相期における高等学校の高等普通教育

第三節 小松原文相期における高等学校の高等普通教育

第八章 一九四〇年代の英才教育——文部省の「特別科学教育」における試み (金智恩／お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所特任講師)

第一節 一九一〇年代の英才教育をめぐる言説

第二節 教育審議会における飛び級をめぐる議論

第三節 文教懇話会の「戦時顕才錬成機関設置要綱」

第九章 戦後初期の義務教育教員養成における「観察・参加・実習」の構想と課題——教育実習改革に焦点化して (山崎奈々絵／聖徳大学大学院教職研究科教授)

第一節 「観察・参加・実習」の導入

第二節 「観察・参加・実習」をめぐる現実的な課題

第IV部

教育・文化の格差と分断を乗り越える
——文明、沖縄、夜間中学校、方言と標準語

第一〇章 勝海舟と文明論

——ギゾーの西洋文明史論和訳書「序」をめぐる試み (河田敦子／東京家政学院大学現代生活学部教授)

第一節 二〇世紀以降の西洋文明史論

第二節 勝海舟とギゾーの西洋文明史論の和訳書「序」

第三節 勝海舟の文明観

第十一章 占領初期沖縄群島における本土との教育格差——中三の「事実上の不就学」問題に着目して (萩原真美／琉球大学博物館協力研究員)

第一節 沖縄群島における新制中学校設立当初の状況

第二節 中三の「事実上の不就学」問題の発生

第三節 中三の「事実上の不就学」の要因

第十二章 一九五〇年代の横浜市の青少年施策と夜間中学校 (大多和雅絵／川口短期大学こども学科専任講師)

第一節 教育委員会主導による夜間中学校の開設の背景

第二節 横浜市内における夜間中学校の開設の経緯

第三節 青少年問題への対応策としての夜間中学校のすがた

第十三章 一九五〇年代初頭の漁村にみる標準語教育の模索——千葉県安房郡富崎小学校と大田堯らのかかわり (鳥居和代／金沢大学人間社会研究域学校教育系教授)

第一節 戦後初期の話しことばに関する文部省の方針

第二節 大田堯研究室の富崎村調査と教育計画の見直し

第三節 富崎小学校の標準語教育の実際

第四節 富崎小学校における標準語教育の模索

あとがき (鳥居和代)

注文カード

帖合・貴店名

〈八木書店経由〉

注文数

定価●四、四〇〇円(税込)
ISBN978-4-86617-250-7

戦後教育史をひらく

発行 六花出版

編著 米田俊彦・鳥居和代・齋藤慶子・
大多和雅絵・松島のり子

お名前

お電話番号

注文 年 月 日

●弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。
お急ぎの場合は小社に直接ご連絡ください。電話03(62663)8787

Fax03(62663)8788

電子メール info@rikka-press.jp